



岳連活動を考える

群馬県山岳連盟会長 羽野順一

永年群馬県山岳連盟の会長として素晴らしい実績とリーダーシップで岳連を指導して来ていたいたい星野光会長から、平成二十年に、考えてもみなかつた身に余る大役を引き受け、三年が経ちました。

この間、角田・八木原両副会長、佐藤理事長、小林副理事長、女屋事務局長、各部の部長と役員の皆様に協力をいただき、小林参与会長及び参与会の方々から御指導をいただき、何とか新米会長としてここまでやつてこれました。

私が会長になつてから岳連の主な事業としては、従来からある事業の他に、個人会員制度の新設、国体山岳競技の関東ブロック大会を担当県として開催したこと。その他、佐藤理事長が中心になつて登山講演会「病気に負けない健康登山」と題して、群大麻酔蘇生科教授の齊藤繁先生に講演をいただき、県内四会場で開催し大変多く出席者がありました。今年一月

十五日には日山協の創立五十周年記念式典もあり、最近では二十年続いた山田昇杯登山競争大会に代わり、第一回上州武尊山スカイビュートレイル（山田昇杯）大会

の開催が川場村の主催で行われることが決定して、現在着々と準備が進んでいます。このように岳連

活動においては、群馬岳連が一つにまとまり、役員を初め各会の協力で順調に推移して来ましたが、三月十一日に発生した東日本大震災による大津波が起き、多数の人達が亡くなられ、家が流され、その上、福島で原発事故が起き、放射性物質による災害が大変大きな問題となっています。これにより日本中が暗いムードになり、重苦しい中での新年度がスタートしています。

四月に八木原副会長が日山協の副会長に就任しました。群馬岳連としても大変名誉なことで、今後日山協での活躍は群馬岳連にとっても大変です。

ても大変プラスになると期待しています。

さてここで今後の群馬岳連活動について私なりの考えを書いてみたいと思います。

以前から岳連の中には各部制があり、部長又は委員長を中心となり、各役員が各部に所属し、それで頑張って行事を行っています。例えば指導部を例にとつてみると、一般と岳連会員を対象に各種講習会の開催の他に、以前から毎年行っている「登山教室」は、岳連の中でも一般登山者に対して大変プラスになつてている事業と思います。今後も継続して行つてほしい事業の一つだと思います。

遭対部については、伝統ある救助隊についてですが、実際に救助活動に出動した例がここ数年はほとんど無い現状の中、今後の救助隊の活動についてですが、実際に救助隊についてみてはどうでしょ

うか。

海外登山研究会に関しても、岳連の中でも以前にくらべ人数も少くなり、今後の海外登山を考えたとき、現在ある力に見合った活動で良いのでは。むしろ何年か先を見据えて力を蓄える時かも知れません。

国体部とクライミング部については、現在クライミング競技会（国体）について関東ブロック大会等でなかなか予選が通過出来ない現状の中で何か打開策はないのか。例えばレベルアップのため他からハイレベルなコーチをお願いするとか。

高体連登山部の活動には大きな期待を持っています。次代を担う若い生徒達に山の素晴らしさを充分教えていただき、卒業後もいつまでも山に親しんで行くような指導をしてもらおうよう高体連登山部の先生方にお願いしたい。

事業部での岳連カレンダー作成については、山岳写真協会の橋本副会長さん達の山岳写真の専門家の先生方に指導していただき、素晴らしいカレンダーの作成を期待しています。私個人の意見としてですが、岩場、冬期、海外の山等も多くの入れてほしい。

自然保護部の活動は他県の岳連

と比べても自慢出来る活動を行なっていると思います。特に山の水質調査は今後も続けてほしいと思います。

編集部については『山岳ぐんま』

発行に岳連全体でもつと協力してほしい。年四回の発行に努力してほしいと思います。

個人会員制度については、私が会長になつてからの新設された事業ですが、現在阿部君を中心にして頑張つて順調に推移しています。今後も期待しています。

平成二十二年度 群馬岳連総会

二〇一一年五月二十九日午後六時から前橋ホテルにおいて、群馬

訴えた。

県山岳連盟平成二十三年度総会が開催された。羽野順一会長は、開会挨拶の中で、東日本大震災被災者義捐金応募について会員の協力に謝意を表し、本年十月開催される第一回上州武尊山スカイビュートレイル（同実行委員会主催）の準備・運営に対する支援を要請し、また、高体連登山部で登山やクライミングを経験した高校生が、卒業後も登山を楽しむ人になつてしまい、岳連各会が若い有力な会員の獲得と育成を心がけてほしいと

総務部は事務局長の女屋さんが一人ですべての岳連総務（事務局）を永い間行なつてくれています。頭の下がる思いで感謝致しております。

最後になりますが、岳連役員のみんなをはじめ各会の方々には、目頃大変多忙の中にもかかわらず岳連活動に協力いただき感謝申し上げます。今回の文章については、私個人としての考えを感じたままを書いてみましたが、少しでも参考にしていただければ幸いです。

関東地区山岳連盟は、国民体育大会関東ブロック大会山岳競技を開催する都県山岳連盟に事務所を置くことが規約で定められています。平成二十二年度は群馬岳連が当番県となり、総会を平成二十三年二月五日（土）～六日（日）に、安中市磯部温泉の「磯部館」で開催しました。各都県山岳連盟から三十一名、群馬岳連からは羽野会長以下九名が参加しました。

二 第十三回関東地区スポーツクラブイミング競技会について（埼玉県）

ウ 総務員の減員について
現行どおり、各県一名とする。

三 各県からの協議課題等

エ 公認ビレイヤー制度について
各県がビレー技術の向上を図りで動いている。

四 第六十六回国民体育大会関東ブロック大会山岳競技について（茨城県）

オ 国体関東ブロック大会山岳競技の規則集を作成する提案があつた。（神奈川県）

五 スポーツクラブイミング競技会関係

ウ 総務員の減員について
現行どおり、各県一名とする。
各県競技委員会は、各県競技委員会の意見を集約し、継続か中止を検討することとなつた。

六 第二回国民体育大会山岳競技について（茨城県）

イ 関東地区スポーツクラブイミング競技会は、各県競技委員会の意見を集約し、継続か中止を検討することとなつた。

七 審判員の増員について

ウ 関東地区スポーツクラブイミング競技会参加資格の問題も、各県競技委員会関係者の意見を集約して決定することとなつた。

八 ス関係

東京都は、日本山岳協会が日本におけるトレイルランニングの統一基準を定めた方が良いと

平成二十二年度 関東地区山岳連盟総会開かれる

総務委員長 女屋等志

平成二十二年度 関東地区山岳連盟総会議事内容

（一）国民体育大会関東ブロック大会山岳競技会議事内容

議事内容等は、以下のとおりです。

（二）国民体育大会関東ブロック大会山岳競技会議事内容

議事は会則に従い会長が進行、女屋等志事務局長が議案書に基づいて説明・提案して、全議案が異議無く承認された。

（三）国民体育大会関東ブロック大会山岳競技会議事内容

総会の中で、群馬岳連機関誌『山岳ぐんま』掲載広告協賛事業所としてご支援頂いている石原工業株式会社、モリ電設（有）、山とスキーの店石井、アンナブルナリんご園、萬屋建設株式会社、丸萬石油、建設生コン（株）、鈴木工業所、萬栄ビル（株）に羽野会長から感謝状が贈呈された。

タ一 クライミングウォールは仮設のため、事前練習は出来ない。

場所 茨城県立スポーツセンター

会期 平成二十三年七月二十三日（土）～二十四日（日）

開催県

審判長一人、審判員二人

副審判長一人、審判員二人

次期開催県

その他、審判員二人

山 岳 ぐ ん ま

いう意見であるが、神奈川県は開催団体の趣旨があるので要望事項として取り上げることとなつた。また、トレイルレースと山の自然保護との関わりを精査する必要があるといった意見があつた。

日本山岳協会は、全国各地で問題が発生している現実を掌握し、どういう対応をしたらよいかということ、今後の進め方をどうするか示していきたい。

(四) 山岳遭難対策関係

東京都から、遭難防止活動の共有の推進、救助技術研修の交流、事故発生時の連携についての要望があつた。

神奈川県は、平成二十三年度に山岳遭難防止対策協議会を設立するので、組織を持つ県から協力して欲しいということであつた。

(五) 国民体育大会関東プロツク大会山岳競技実行委員会会長印の分担

作成代金の分担が了解された。

(六) 個人会員制度について

神奈川県は、平成二十三年度から実施に向けて動いている。貴重なご意見があつたら教示して欲しい。

平成二十三年度自然観察会 「上越県境稻包山」

平成二十三年七月二十四日

自然保護委員会 三 田 治 宣

(太田山岳会)

今回の自然観察会として登る山

調である。

般参加者二十三名、合計三十五名

ほどなく歩き始めたところに、

池があり委員長

足がつったという女性が出たが、

テープelingで処置できたそうで安

心した。登り始めにストレッチ体

操をしていなかつたことが悔やま

れた。

群生があり、花の時期は見事でし

た。

一時間ほどすると尾根歩きとな

り、視界が開ける。時折吹き抜けてください、二班に分かれ、そ

れぞれ講師の説明を聞きながら山

頂を目指した。

ほどなく歩き始めたところに、

池があり委員長

の指示で資料を

配つた。そこは、

六月の下見のと

き「クロサン

ショウウオ」の

卵胞を見つけ印

象に残っていた

歩くペースの都合で二班に分か

れたが、全員登頂できました。小

さく、花の時期は見事でした。

各班、講師の方に動植物の説明

を受けながら、歩いていたので楽

しそうでした。

解散際にアンケートを記入して

もらいましたが、山の景色や講師

の解説に満足していただいた内容

で、安心しました。

帰宅後、私はその日のうちに晚

酌をしながらアンケートに目を通

します。貴重な意見をありがたく

思ひ、やつてよかつたなど今後の

励みとなるからです。

群生している

ヤマアジサイの

花が丁度見頃で、



（左）群馬側から登ると、山ビルに大歓迎を受けるのだが、新潟側から登ると遭わずに済んだ。これなら参加者のクレームはないだろう。

さて、当日、国道十七号沿いの交差点に役員に案内係として立つていてもらい、全員迷うことなく集合できた。まずは好

き、やつてよかつたなど今後の励みとなるからです。



守ります。美しい日本の山。

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

救助費用は多くてあります。

■ 平成21年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成22年6月8日)

発生件数 **1,676** 件

救助者数 **2,085** 人

死傷者数 **317** 人



詳しくは → www.jma-sangaku.org

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL : 03-5958-3396 FAX : 03-5958-3397

E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

「谷川岳の日」制定と今年の山開き

群馬岳連副会長 八木原 圭明



一ノ倉沢出合でのアルプホルン演奏

め、森林の豊かな恵みに感謝し、自然と共に生きてきました。山の恩恵は渓谷の清流を生み、わが国を囲む海へと流れ、生きとし生けるもの育むだけではなく、豊かな心をも育んできました。わが国の文化は、「山の文化」と「海の文化」の融合によつてその根幹が形成されてきたと言われています。

『わたしたち山を愛する五つの山岳団体は、国民祝日としての「山の日」制定を提案して『山の日』制定協議会』が組織（二〇一〇年四月）された。協議会作製パンフレット「山の日をつくろう」による支援要請文には以下のように書かれている。

『わが国の国土は、七割近くが広い意味での山であり、その多くを森林が覆っています。古くから本山岳ガイド協会、日本ヒマラヤンアドベンチャートラストが呼応

岳協会、日本労働者山岳連盟、日本山岳ガイド協会、日本ヒマラヤンアドベンチャートラストが呼応

の全てが銘記する日です。この運動を通じてわたしたちは、登山者の安全と健康に寄与し、登山の楽しみを広く伝えたいと念願します。すでに祝日となつて『海の日』と対をなして、日本に住む全ての人々が、山という自然を見つめなおし、深いかかわりを考える日にしたいと思います』

（山の日制定協議会）

二〇〇二年は国連の定めた「国際山岳年」だった。一九九二年の



谷川岳山開き（ペンション木馬・八木伸二氏提供）

国連はこの国際山岳年を記念して翌二〇〇三年より十二月十一日を「国際山の日・International Mountain Day」とすることを決め、世界各国に通知した。この日には合わせて世界各国が一齊に山に関する催しを開くことが期待されたが、日本でも登山は一休みという感じの冬の始まりという季節。地域、国により季節感も違い、あまり拡がらなかつた。国連の主唱と言う格好の機会であつたのだが残念であった。（因みに今年二〇一一年は国連による国際森林年であるが、どれほどの人が知っているか？PRも難しい）

【ぐんま山の日】

群馬県は利根川の上流にあり、三方を山に囲まれている。二〇〇〇m級の山岳、上毛三山、

ともに、美しく豊かな自然を守り、育て、次世代に引き継ぐことを国民

尾瀬、谷川岳など県民に広く親しまれその山々が織りなす大自然は多様で変化に富んでいる。

私達の暮らしは年々便利になり、都市化し、山や森林は遠く離れた場所のことになっている。しかし、山や森林によつて、私達の暮らしは支えられている。今、山や森林をみんなで見つめ直すことが必要ではないでしょうか。

『ぐんま山の月間』の制定をきっかけに、山や森林に親しみ、そこに学び、その恵みに感謝し、それを守る取り組みを推進しました。(ぐんま山と森の月間推進会議資料より。○七・一〇・二六)

群馬県議会による「国民の祝日『山の日』」の制定を求める意見書の国への提出(○四年十月)、群馬県を含む森林の公益的機能拡充推進協議会(通称・海なし七県協議会)が、国民の祝日『山の日』の制定を国に要望(○五年七月)。

全国知事会が国民の祝日『山の日』の制定を国に要望(○六年七月)などを経て、群馬県内の森林関係、自然保護団体、こけし組合、山岳連盟など民間活力を取り入れ、行政主導でなく取り組みたいとし、先ず〇八年(平成二十年)から十月を『ぐんま山と森の月間』とし

て県民に山や森林への理解と関心を深めてもらう取り組みを開始した。

そして「ぐんま山の日」は二〇一〇年二月、『本年より毎年十月第一日曜日を“ぐんま山の日”とする』と、前記の民間団体と群馬県や群馬県市長会などの三十八団体で制定を決定した。

【谷川岳の日】

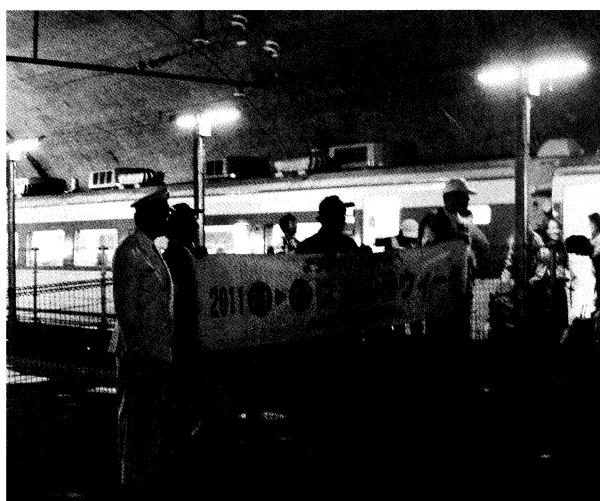
谷川岳の日は数年前からみななか町の有志の中では制定しようと言ふ意見はあつたが、大きな盛り上がりとはならず、今日に至つた。

しかし、全県的観光PR大作戦が展開される群馬デステイネーション

事業事前打ち合わせ懇談会が土合の谷川岳山岳資料館で催され、水た。



土合地下駅



26年振りに復活した夜行の谷川列車

ン・キャンペーンが本年二〇一一月七月一日から九月末までの三ヶ月間県内全域で繰り広げられる。

また二〇一一年は清水トンネルが貫通し、上越線が全線開通した

一九三一年(昭和六年)九月一日からちょうど八十年の記念の年に

もなる。温泉への入り込み客の減少に悩むみなかみ町もこれを機に

観光客を呼び込もうとあれこれとアイディア、イベントが検討され

ていた。その中で再浮上してきたのが「谷川岳の日」の制定であつた。

昨一〇年九月、谷川岳関連記念

下った記録がある」として候補筆

藤島敏男と森喬による土樽から茂

川岳の日制定であったための有志が参加し、いかに水上を、



上山岳会、ガイド協会、観光協会、商工会、町觀光商工課、JRなどに有志が参加し、いかに水上を、

谷川岳を盛り上げて行くかを相談する。その中の目玉的なものが谷

川岳の日制定であった。

「何月の何日」にするか、は記念日が定着するか否かの最重要な問題である。前述の「国際山の日」の不定着は全世界一齊にとい

う季節、気候などが正反対になる地球全体の話のためにもう一つ定着させることは出来なかつた。小さな日本であつても、その中の群

馬県であつても多くの登山爱好者が「山登り」をしやすい、自然の中へ行きたいと思うシーズンでな

きな日本であつても、その中の群馬県であつても多くの登山爱好者が「山登り」をしやすい、自然の中へ行きたいと思うシーズンでな

きな日本であつても、その中の群馬県であつても多くの登山爱好者が「山登り」をしやすい、自然の中へ行きたいと思うシーズンでな

きな日本であつても、その中の群馬県であつても多くの登山爱好者が「山登り」をしやすい、自然の中へ行きたいと思うシーズンでな

きな日本であつても、その中の群馬県であつても多くの登山爱好者が「山登り」をしやすい、自然の中へ行きたいと思うシーズンでな

岳の山開きであるため、記念日の印象が薄くなつてしまふのではないか、と言う心配もあり様々な意見が出された。いや、七年に一度は谷川岳の日と山開きが一緒になる。その年は大いに盛り上げられる。そして七月一日から七日までを「谷川岳ウイーク」として色々なイベントを考えれば良いとなる。

こうして「谷川岳の日は七月二日」として日本記念日協会へ申請し本年三月に認定されたものである。みなかみ町が中心になつて進めるイベントではあるが、山岳連盟共々、新潟県関係者とも連携をとることも確認した。

ければならない。そこで有力な案として提案されたのが七月一日で、あつた。

「制定記念式典」と「山開き」

谷川岳プロジェクト実行委員会は谷川岳ロープウェーの土合側駅のベースプラザで七月二日に谷川岳の日制定記念式典を開催し、制定を記念して募集した「私の谷川岳記念日」と題したエッセイの各賞発表と表彰式を行い、審査委員長の田部井淳子さんの記念講演も実施した。

一日からの谷川岳ウィークではベースプラザで「谷川岳回顧展」を日本山岳写真協会会長の羽田栄治さんの写真展、みなかみ町の水紀行館では一ノ倉沢衝立岩初登攀の南博士人の絵画展を開催するが、両展の入り口は私共の山の先輩であり、日本山岳写真協会副会長の橋本勝さんの大きな一ノ倉沢と衝立岩登攀の写真が花を添えた。

山開きに当たり、JR東日本は水上駅長の岸さんの尽力で上野発土合行きの臨時夜行列車「谷川岳山開き号」が走ることになり、夜行列車の廃止に伴い開始時間を遅らせていた山開きの神事も列車の四時からの復活開始とし、それに呼応してロープウェーは五時か

ら運転して天神尾根からの登山をしやすいように協力してくれる。

普段は平日は午前八時、土日は七時からの営業である。

肩の小屋では登山者に豚汁をサービスし、群馬大学の齊藤繁ドクター他の皆さんによる「バイタル・チェック」が受けられ、登頂記念の木札をもらう。木札持参者は谷川岳山岳資料館、水紀行館などで登頂証明書がもらえ、町内の多くの店で様々な割引を受けられるようにした。夜行列車の乗客、一ノ倉沢へのエコハイク参加者にも木札はプレゼントされた。十月末まで配られる。

マチガ沢出会いのマムシ岩ではロープウェーのベースプラザでは谷川岳の登攀史に名前を残した名クライマー、登山家による「トーク・ショウ」が開催された。他のイベントのこともあり、人出も木札はプレゼントされた。十月末まで配られる。

南さんの話は経緯として興味深かつたが、松本さんにもつともつと話して頂きたかった。いずれにしても豪華メンバーにお願いした割りには一時間半ではいかにも時間が足りなかつた。これも我々の計画の甘さがあつた。惜しいことは悔やまるが、たくさんの皆さんに貴重な話を聞いて頂くことは出来た。

南さんの話は経緯として興味深かつたが、松本さんにもつともつと話して頂きたかった。いずれにしても豪華メンバーにお願いした割りには一時間半ではいかにも時間が足りなかつた。これも我々の計画の甘さがあつた。惜しいことは悔やまるが、たくさんの方々に貴重な話を聞いて頂くことは出来た。

載。

森喬（もり たかし）は

一八九五年（明治二十八）千葉県生まれ。東京帝大卒後外交官となり、ハンガリー大使の後弁護士となる。日本山岳会員番号五九〇番。

一九二七年（昭和二年）慶應の大島亮吉が谷川岳東面に集中的に注いだ情熱は谷川岳登山隆盛の発端となつた。一九三一年（昭和六年）九月一日の上越線全線開通の恩恵は特に京浜地区からのアプローチを容易にし、更に多くのクライマー・登山者を惹きつけ、尊

群馬岳連の救助隊による救助訓練デモンストレーションが行われ、

一ノ倉沢出会いでは野点（のだて）、音楽祭と銘打つての琴、でんでこ座三国太鼓、尺八、アルプホルン、笛などがウィーク中実施され、幸運にもそこに居合わせた観光客や登山者はとても喜んでくれた。

メンバは衝立岩初登攀者の南博さん、コップ状岩壁初登攀者の松本龍雄さん、現日本山岳協会会長の神崎忠男さんと司会的な狂言回しとしては最適な登攀経験豊かな須田義信第二次RCC代表である。

山岳崇拝、信仰の山、生活の山から「近代スボーツの山・谷川岳」への転機は一九二〇年（大正九年）七月のことである。藤島敏男、森喬が新潟の土樽に住む案内人・剣持政吉を伴い土樽から先ず仙ノ倉山に登頂し、次いで土樽から茂倉岳、一ノ倉岳、谷川岳を経て天神尾根から谷川温泉までの初縦走か

藤島敏男は一八九六年（明治二十九）東京生まれ。東京帝大卒で日本銀行の局長を務めた。森喬と書いた「上越境の山旅」は日本山岳会報「山岳」に掲載され、後に自著「山に忘れたパイプ」に転載。

谷川岳のおさらいとして

山岳崇拝、信仰の山、生活の山

い犠牲を出しながら谷川岳南面から東面のマチガ沢、一ノ倉沢、幽ノ沢などへ現在の登攀ルートが開拓された。谷川岳岩壁群は剣岳、穂高岳と共に日本の三大岩場と呼ばれている。

大島亮吉の『主として谷川岳の岩壁の下調べに行きたるなり、てよい山なり』(慶應山岳部報・登高行七号、二九年刊)は、翌一九三〇年の谷川岳登攀史上記念すべき年を迎させ、天才クライマー、東北帝大の小川登喜男らの登場となる。七月小島隼太郎(日本山岳会初代会長・小島鳥水の息子)ら(青山学院高等部)が二ノ沢左俣を一ノ倉沢初登攀に成功すると、三日後小川パートイは初見参で3ルンゼを初登攀し、幽ノ沢、マチガ沢と初登攀を重ね、冬季初登攀も次々と成功させた。(＊小島鳥水は映画・剣岳点の記のタンディイな登山服姿の登山家)

一九三三年に建てられた芝倉沢出合の成蹊学園の虹芝(こうし)寮をベースとした成蹊高校の渡辺兵力、高木正孝コンビは一九三三年十二月、一ノ倉沢2ルンゼの冬季初登攀後吹雪の中で下降路を誤り、幽ノ沢に迷い込み左俣大滝を

雪崩と共に墜落するも、奇跡の生還を果たす。幸運にも大武勇伝となる。

第二次世界大戦後社会人山岳会

の活動が再開し、一九五八年(昭和三十三)六月東京の緑山岳会、雲表俱楽部のコップ状岩壁の初登攀競争が埋め込みボルトの日本初使用で終了し、五九年八月不可能全では尚研究を要すべし。近く

登攀が再開し、一九五八年(昭和三十三)六月東京の緑山岳会、雲表俱楽部のコップ状岩壁の初登攀競争が埋め込みボルトの日本初使用で終了し、五九年八月不可能全では尚研究を要すべし。近く



クライマーズ・トークショー
南さん、松本さん、神崎さん、須田さん

山名など

『谷川岳』は現在「耳二つ」と呼ばれる双耳峰、手前側、とまく、とば口にある「トマの耳」と先の方、奥、沖にある「オキの耳」とされているが、もともと生活上の猟師、植木採りや信仰登山も南面の谷川温泉側が基地であり、幕岩の上の「姐嶋・まないたぐら」を指して、ただ「タケ」と呼んでいた。これが谷川岳で

一九二二年に行われた。西黒沢のガレ沢のコルの下部に西黒尾根登山道が付けられ、多くの登山者を迎えるのは後年のことで、初期は現在の天神尾根が使われていた。尾根へ出るには先ず谷川温泉の終点の展望台のあるところへ出るコース(現在は廃道)から始まり、天神峠(天神平からのリフト)の富士浅間神社裏から尾根筋を辿り、天神峠(天神平からのリフト)の終点の展望台のあるところへ

上越の山より)という。峠は「手向け・たむけ」の転訛で通行者が道祖神に手向けをするから、といふ説もある(広辞苑)。天神峠の場合はこの説が合っているように思える。

天神尾根には「ざんげ岩」や

一九五六年の日本山岳会によるマナスル(八一六三m)初登頂も引き金、刺激になり、日本に登山ブームを引き起こしていた。

翌一九六〇年(昭和三十五)九月、後に谷川岳遭難を代表するほど有名になってしまった事故が衝立岩で発生し、自衛隊員の出動・銃撃によりザイルを切断して二名の宙づり遺体が収容された。その

十二月、天神平スキー場の開設に伴い土合(天神平間のロープウェー)が開通し、谷川岳も新時代を迎えることになった。本年二〇一〇年はその五十周年の年でもあった。

谷川岳周辺の測量は大正元年(一九一二年)に行われた。西黒沢のガレ沢のコルの下部に西黒尾根登山道が付けられ、多くの登山者を迎えるのは後年のことで、初期は現在の天神尾根が使われていた。尾根へ出るには先ず谷川温泉の終点の展望台のあるところへ出るコース(現在は廃道)から始まり、天神峠(天神平からのリフト)の富士浅間神社裏から尾根筋を辿り、天神峠(天神平からのリフト)の終点の展望台のあるところへ

上越の山より)という。峠は「手

あつた。「嵐・くら」は岩のかたまり、岩壁の意で倉が充てられる。湯檜曽温泉、土合側はせいぜい猶師道くらいで、登山道は無かつた。しかし五万分の一地図作成時の誤記で、「耳二つ」を指すようになつた(と言われる)。川(沢)の名前もここ南面を流れるのが「谷川」であり、富士浅間神社の麓の宮も谷川温泉にある。とは言つても尖つた山、周辺で一番高い山が頂上と呼ばれるのは論を待たない。その意味では幅広の稜線であり、山頂とは言いにくい姐嶋よりは耳二つの方がいかにもピーカ然としたピークではある。

谷川岳周辺の測量は大正元年(一九一二年)に行われた。西黒沢のガレ沢のコルの下部に西黒尾根登山道が付けられ、多くの登山者を迎えるのは後年のことで、初期は現在の天神尾根が使われていた。尾根へ出るには先ず谷川温泉の終点の展望台のあるところへ出るコース(現在は廃道)から始まり、天神峠(天神平からのリフト)の富士浅間神社裏から尾根筋を辿り、天神峠(天神平からのリフト)の終点の展望台のあるところへ

上越の山より)という。峠は「手

保登野沢の「保登・ほと」は「陰」で「女陰、女の性器」の意である(もしかすると男性器も言うらしい)が、「山間のくぼんだところ」、いわゆる沢である。次いで一九五四年、南面の二俣経由で熊穴沢避難小屋へ出る「いわお新道」が水上営林署の竹花巖(いわお)により開削された。

「天神峠」であるが、「峠」と言

うと「山の上りから下りにかかる境」である「鞍部」だけをつい連想してしまうが、「山の坂路を登り

つめた所」の意を探れば、日本登高会編「上越の山」による「天神

峠の峠は谷から谷へ、村から村へ

通ずる峠ではなく、言わばヨーロッパで言う「ヨツホ即ち肩の意」ではないかと思う。然し露岩の上には山の神が祭つてあるといふ説もある(広辞苑)。天神峠の場合はこの説が合っているよう

に思える。

山岳ぐんま



おきの耳に奉納されていた「懸仏」(阿部利夫氏提供)
この懸仏は鏡面に、「富士浅間大菩薩 永禄八年乙丑六月
一日 良正 作」とある。永禄8年(1565)というと、戦国時代の真っ只中にあり、越後の上杉謙信が三国峠を越えて盛んに関東に侵攻していた頃である。

憧れの馬蹄形

谷川連峰は白毛門、朝日岳から平標山、三国峠までを言う大きな山塊である。全山縦走はアプロー

日本海側の多雪地帯に属するため、標高一四〇〇mくらいまで硬い岩石からなる。

この連峰の地質は第三紀層の緑色凝灰岩、蛇紋岩とそれを貫く花崗岩、石英閃綠岩などからなり、山稜の上部は接触変成岩のきわめて硬い岩石からなる。

日本海側の多雪地帯に属するため、標高一四〇〇mくらいまで硬い岩石からなる。

岳崇拝、信仰登山などで登られたことを考えると、天神尾根の名は後から名付けられたと考える方が妥当かも知れない。

地質、自然

この連峰の地質は第三紀層の緑

色凝灰岩、蛇紋岩とそれを貫く花崗岩、石英閃綠岩などからなり、山稜の上部は接触変成岩のきわめて硬い岩石からなる。

で、森林帶で、ブナ、ミズナラ、などの落葉広葉樹が混生する。一七〇〇mくらいまでがミヤマラ、それ以上の稜線や斜面はチシマザサ(クマザサ・隈笹ではない)が主体の高山性植物帶になっている。高山植物はおよそ一五〇種、動物は哺乳類二十九種、鳥類九十二種などで、特別天然記念物に指定されている二ホンカモシカも生息している。

太平洋側と日本海側の境界の脊梁山脈にあるため気象変化が激しく、積雪と豪雨、強風などの浸食作用は地質の違いとともに、とくに群馬県側の東斜面と南斜面は複雑で急峻な地形を形成し、大岩壁

も生息している。

一ノ倉沢などの氷河痕

これまで谷川連峰に氷河があつたか否かについての論争があつたが(今も?)現在は「あつた」説に傾いているようである。例えば

一ノ倉沢や幽ノ沢、マチガ沢など

の岩壁の直下から雪の詰まつた谷

の両岸に沿つてのびるモレーンの配列で氷河が二、三回前進と後退を繰り返したと判断できるとか。

氷河が消滅した現在、一ノ倉沢をはじめ谷川岳の岩盤は雪崩と積雪のグライド(滑動)によって浸食されていて、岩盤には雪崩と積雪のグライドによる無数の擦痕がついているのだという。

今では1日で走破するトレイル・ランナーにも重宝なトレーニング・コースとして使われているらしいが、ブナ林、朝日ノ原の高

が三〇〇〇m級日本アルプスに匹敵する規模、条件を備えている。群馬県側の東、南面が、このように急峻な岩壁を形成しているのと対照的に、新潟県側は万太郎谷に代表されるように森林や叢(くさむら)で覆われて、まつたく異なる様相を呈している。(ナカニシヤ出版刊・新日本山岳誌)

歴史を辿る峠

「清水峠越え道」。利根川の支流・湯檜曽川

に沿つて一筋の古道が続いている。谷川連峰の麓を通り、上州との境にある清水峠(一四四八m)を越えて越後側に下つて魚沼郡清水村(現・新潟県南魚沼市)へ至る道

越後の境にある清水峠(一四四八m)を越えて越後側に下つて魚沼郡清水村(現・新潟県南魚沼市)へ至る道

の道は、戦国時代に越後の上杉謙信が関東進出のためこの峠を越えたと伝えられるが、実際には謙信

が越えたことは無いという。やがて江戸時代になつてこの清



国道291号線の石垣

(幽ノ沢とカタズミ沢の間) 阿部利夫氏提供

しか咲かないホソバウスユキソウ、大岩壁展望と四季を通じて楽しめる馬蹄形の縦走路である。湯檜曽川源流をめぐる、被写体にも事欠かない名コースと言えよう。

理としても人々の多少の往来はあつたと思われる。みなかみ町栗沢（あわざわ）に残る延享二年（一七四五）の「栗沢村絵図」には「けんしん岩」と書かれた大きな岩が描かれている。清水峠から越後側に下つたところの尾根を十五里尾根といい、別名「謙信尾根」と呼ばれている。

寛永九年（一六三二）幕府は軍事的政策の一環として三国街道を設置後二〇〇年を経て天保十五年（一八四四）江戸谷中（台東区）に「関所」が設置されたのはその前年のことである。

二年後に幕府は栗沢、綱子、藤原、湯松曾四ヶ村から延べ一二六一人を動員してペリーの浦賀来航による海上輸送を危惧、陸上輸送を計画した。それが清水峠越えであったが、海上封鎖も無く消え去った。

明治六年、群馬県は清水越え新道開削に着手。翌年一応の完成を見、国道に指定（二九一号）され明治十四年七月拡張工事が着工。十八年九月六日道幅三間の拡張工事は完成し、完成記念式典が湯松曾と上越国境に設けられ、馬車に乗つての北白川宮能久親王、内務卿山県有朋、群馬・新潟県令ら大勢の来賓高官が列席しての式典であった。この工事概要の中で天保年間に峠道開削に奔走した大川領平の業績にも触れられたという。今も苔むした石垣が往時を偲ばせる。

谷中の商人、大川領平らが越後米を江戸へ輸送するために清水峠越え開発を奉行所に願い出る。越後との交通路と定め、清水街道は通行を禁じ、湯松曾、清水に口留番所を設けた。口留番所というのは地元の者を役人にし無断で人や鉄砲、物資などの行き來をさせないように見張る関所のようなもの。三国峠の押さえとして猿ヶ京に「関所」が設置されたのはその前年のことである。

講演会『病気に負けない健康登山』開かれる

群馬岳連理事長 佐 藤 光 由

登山講演会「病気に負けない健康登山」は県内四ヶ所で行われた。講師は同題で山と渓谷社から本を出版している群馬大学麻酔科蘇生科の斎藤繁教授。この企画は岳連と遭難対策委員会で立案し、群馬県教育委員会、山と渓谷社、上毛新聞社に後援をいただいた。

講演内容は、登山者の年齢割合から始まり、呼吸のしくみ、膝にかかる負担の計算、高所登山の注意点、等々盛りだくさんであった。途中に体を動かして学ぶ項目があり飽きることがない内容だった。質疑応答ではサ

越後との交通路と定め、清水街道は通行を禁じ、湯松曾、清水に口留番所を設けた。口留番所というのではなく岩が描かれている。清水峠から越後側に下つたところの尾根を十五里尾根といい、別名「謙信尾根」と呼ばれている。

寛永九年（一六三二）幕府は軍事的政策の一環として三国街道を設置後二〇〇年を経て天保十五年（一八四四）江戸谷中（台東区）に「関所」が設置されたのはその前年のことである。

二年後に幕府は栗沢、綱子、藤原、湯松曾四ヶ村から延べ一二六一人を動員してペリーの浦賀来航による海上輸送を危惧、陸上輸送を計画した。それが清水峠越えであったが、海上封鎖も無く消え去った。

明治六年、群馬県は清水越え新道開削に着手。翌年一応の完成を見、国道に指定（二九一号）され明治十四年七月拡張工事が着工。十八年九月六日道幅三間の拡張工事は完成し、完成記念式典が湯松曾と上越国境に設けられ、馬車に乗つての北白川宮能久親王、内務卿山県有朋、群馬・新潟県令ら大勢の来賓高官が列席しての式典であった。この工事概要の中で天保年間に峠道開削に奔走した大川領平の業績にも触れられたという。今も苔むした石垣が往時を偲ばせる。

キナバル山・ヴィアフェラータ体験記

平成二十三年四月十六日

山岳溪流会石遊 菅 澤 亞矢子

「ヴィア・フェラータ」今まで知らなかつた。調べてみると、ほぼ登攀ルートに近いルートにはしごや鎖をかけ、クライミングの経験がない人でも楽しめるように作られたルートだという。ヨーロッパではすでに五〇〇近いルートがあり、アジアではキナバル山だけ。一体どんなところだろうと、今はキナバル山一般ルート登山＆ヴィア・フェラータ体験の旅に出掛けた。

初日は、羽田空港からコタキナバル空港までの直行便に乗り朝六時三〇分に着く。そこからキナバル公園まで移動し入山手続きして登山開始。その日の十六時までに宿となる「ベンダントハット」ロッジまで辿り着かないとい维ア・フェラータへの出発点までガイドが持参してくれるという。装備を持たずに行けるのは有り難い。

いよいよ当日、ヴィア・フェラータは朝七時開始だ。その前にロッジを午前二時三〇分に出発し一般道でキナバル山頂まで登り、日の出を拝む。帰りの一般道の途中からヴィア・フェラータの「ロースピーカルート」が始まる。パーティーだった。世界中から来ているので多国籍パーティーも



いる。しょっぱなから急なスラブの傾斜を下る。パーテイーはいわゆるコンテで五メートルぐらいおきに設置されている支点（ブタの尻尾）にロープを掛け、スコーキングといわれる専用のセルフブレイ用のカラビナを鎖に掛けながら進んでいく。ガイドのジェイさんは最後尾についてパーテイーの進行具合を確認しながら。私はジェイさんのすぐ前にいて、カラビナのゲートが逆になるとすぐ指摘される。とてもよく見ている。足を滑らせたら、即座に止めに入れるに違いないだろうと思い安心感がある。

岩はフリクションがよく効いて滑らない。また急な箇所はステップが作つてあり足場に困ることも

おきに設置されている支点（ブタの尻尾）にロープを掛け、スコーキングといわれる専用のセルフブレイ用のカラビナを鎖に掛けながら進んでいく。ガイドのジェイさんは最後尾についてパーテイーの進行具合を確認しながら。私はジェイさんのすぐ前にいて、カラビナのゲートが逆になるとすぐ指摘される。とてもよく見ている。足を滑らせたら、即座に止めに入れるに違いないだろうと思い安心感がある。

岩はフリクションがよく効いて滑らない。また急な箇所はステップが作つてあり足場に困ることも

おきに設置されている支点（ブタの尻尾）にロープを掛け、スコーキングといわれる専用のセルフブレイ用のカラビナを鎖に掛けながら進んでいく。ガイドのジェイさんは最後尾についてパーテイーの進行具合を確認しながら。私はジェイさんのすぐ前にいて、カラビナのゲートが逆になるとすぐ指摘される。とてもよく見ている。足を滑らせたら、即座に止めに入れるに違いないだろうと思い安心感がある。

岩はフリクションがよく効いて滑らない。また急な箇所はステップが作つてあり足場に困ることも

ない。支点もステップも新しくて丈夫そう。

途中で、ガイドのジェイさんが「ツツミサン、ツツミサン」というので指差す方を見ると、ルートの数メートル上にハーケンが打つてある。これは一九七四年に堤信夫氏がヴィア・フェラータのルートにもなつていて中央ルートを開拓した際に作った支点だという。三十六年も経つというのに古く見えないのには驚いた。

眼下には、コタキナバルの街が見え高度感と相まって素晴らしい眺めだ。足がすくむような箇所はたくさんあるが、確保している

のでそんなに怖くはない。ここが約三五〇〇メートルの地点であるというのがまた素晴らしい。こ

れだけの高所でこんな体験ができるとは。

しばらくしてブッシュ帯に入る、途中の開けた岩の上で一休み。景色を眺め、写真を撮りまた再開。終了点となるロッジがだんだん近づいてくる。もうすぐ終わってしまうと思ふがヴィア・フェラータのルートにもなつていて中央ルートを開拓した際に作った支点だという。三十六年も経つというのに古く見えないのには驚いた。

ガイドのジェイさんは、絶好のポイントに来ると私達を止め写真を撮つてくれサービス精神旺盛だ。

十時三〇分ロッジ着。スラブ帯をひたすら下降、トラバースあり、はしごありの三時間余りに及んだ

ヴィア・フェラータは終わった。

現在はキナバル山のルートは下降ルートのみの使用になつていて

が、登りのルートにも使えればいいのにと思う。高度感のあるルートを登攀しながら登つてみたらどんなに気持ちがよいだろう。

東南アジアの最高峰で世界遺産にもなつていてキナバル山、一般道を歩きピーカクを踏むのはもちろん、下山時にヴィア・フェラータのような体験ができるという点で盛りだくさんの楽しみがある山だと思う。スタート地点は富士山の山頂とほぼ同じ高度、こんな高所でクライミング体験ができるのは他にはないのではないかでしょうか。

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町 1231 TEL・FAX 0278-23-6802
<http://annapurna.jp>

Annapurna

総合建設業 空調・衛生・消防設備工事

石原工業株式会社

本社 渋川市有馬 164
☎ (0279) 24-7111(代)

工事部 渋川市赤城町北上野 203
☎ (0279) 56-8111(代)

電話、弱電工事

PMORI 電設

〒 379-2223
伊勢崎市小泉町 252
☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2
TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026